中国最大の国際旅行展示会

中国国際旅游交易会 in 昆明

China International Travel Mart 2009

11月19～22日の4日間、日本ブースも盛況

「YOKOSO!JAPAN」と呼び掛ける日本ブース

現地リポート

中国最大の国際旅行展示会「中国国際旅游交易会(CITM2009)」が11月19日から22日までの4日間、中国雲南省の省都、昆明市の昆明国際コンベンションセンターで開かれた。日本など世界94の国・地域、中国国内の省ほか、旅行、ホテル、航空会社など世界の観光関連企業が出展。訪れた旅行関係者や一般客に各地の魅力をアピールした。(森田淳)

94ヵ国・地域から2148ブースが出展

CITMは中国国家観光局などの主催で、今年で11回目。98年に上海で初開催、00年に第2回が開催され、以来毎年、上海と昆明で交互に開催されている。

今回は昆明市のコンベンションセンターで、5万平方㍍の広大な展示スペースに世界の国々と中国国内の省・自治区・市などが2148のブースを出展。日本からもブース出展した。

「YOKOSO(ようこそ)!JAPAN」のロゴで彩られた日本ブースでは、日本政府観光局(JNTO)による日本観光の総合案内や、地方自治体、観光関連企業らによるそれぞれの地域や施設、サービスのPRを、中国語のパンフレットやポスターを使い、精力的に行った。

今年7月の個人観光ビザ解禁を受けて、日本側の出展者は、中国からの多くの来訪に期待すると述べた。

今年は世界同時不況や新型インフルエンザの影響で韓国、台湾など訪日の大きな市場が冷え込んでおり、「経済面で急成長を遂げる中国が唯一の期待」との声も挙がっていた。

オープニングイベント。雲南省の少数民族の衣装を着た人々がパフォーマンス

日本観光の総合案内所。キティちゃんのイラストや浜崎あゆみの音楽ビデオで日本文化をアピールした

出展者の声　日本ブースから

医療やエコツーリズムにも注力
JTBグループ

中国は景気がよく、お客さまは今後ますます増えるだろう。日本に来てもらえるよう、我々が特に強化しているのはメディカル(医療)ツーリズムとエコツーリズム。工業など技術の進歩も見てもらいたい。

(JTBグローバルマーケティング&トラベル社長・深川三郎氏=写真右)

中国は上向きの大きな市場。我々は「ジャパニカン」という4カ国語のウェブサイトを立ち上げ、日本の旅館・ホテルやツアーの販売を強化している。

(JTBエイティーシー社長・砂原泉氏=写真左)

国内各地をつなげるプランを
プリンスホテル

日本への中国人客は現在約100万人。今後、600万人まで増えることが予想されている。

ただ、中国での日本の知名度はまだまだ低い。このような機会を通じて、どんどん高めていきたい。

我々は1軒だけでなく、国内各地域に出店している。東京と箱根、軽井沢など、これらをつなげた形のプランをお客さまに提案したいと思う。

(海外営業部長・山添俊一氏)

友好都市生かし伝統と温泉PR
高山市

現在、訪日のお客さまはゴールデンルートや映画の舞台の北海道に集約されているが、高山市としては、ゴールデンルートから気軽に来られることをPRしたい。

高山は中国の雲南省麗江市と友好都市提携をしている。そんな関係も生かし、日本の古きよき伝統と、温泉が豊富な当市をアピールしていきたい。

(高山グリーンホテル販売促進部部長・森川達夫氏)

教育や中身の濃い旅行を誘致
藤沢市

当市は1981年から昆明市と友好都市提携をしており、以前から交流があった。現在行っているのは教育旅行の誘致。今年2月には昆明の小学生一行が訪れ、市内の小学校と交流、一緒に給食を食べたり、江の島の観光を楽しんだりしてもらった。来年も2月に小・中・高校生が藤沢に来る予定だ。

隣の鎌倉にも多くのお客さまが訪れているが、ぜひ藤沢にも足を運んでもらいたい。個人や小グループに湘南のクルージングや、相模湾の高級魚を食べてもらうなど、中身の濃い旅行をしてもらいたいと考えている。

(経済部観光課主幹・赤坂政徳氏)

FITのお客さま増やしたい
藤田観光

当社はワシントンホテル、婚礼宴会中心の椿山荘と太閤園、小涌園の3つを前面に打ち出している。インバウンドは数年前から取り組んできたが、順調だった台湾、香港、韓国の市場が冷え込んできた。中国には積極的に展開したい。

中国のお客さまは、今までは団体がメーンだったが、今後はビザの緩和もあり、FITのお客さまも増やしていきたい。

(中国営業推進部長・飯野満氏)

アウトレットで"賢く"買い物を
チェルシージャパン

中国はこれからの市場として、今後10年、20年伸びていくだろう。

御殿場とりんくう(大阪府)には、特に目を向けてもらっているが、当社はこのほか土岐、仙台、佐野などに店を構えている。高速道路沿いの、立ち寄りやすい場所にある。

中国では個人観光ビザが解禁になり、FITで日本に来る人が相当増えると思う。皆さまにはアウトレットで賢く、お買い物をしてほしい。

(御殿場プレミアム・アウトレット副支配人・横田深氏)

FITに提案できるコースを
ジャパンホリデートラベル

世界の中で元気なマーケットは中国。今後、右肩上がりで成長すると思うが、よりよいお客さまを獲得するには、よりよい商品を提供しなければならない。

ニーズが多様化している。しかし、日本の旅行社は、そのニーズにこたえられていない。FITに提案できるコースがまだ少ない。ソフトの整備をしなければならない。

(社長・呉煜康氏)

中国人向けサービスに工夫必要
日本航空グループ

中国人への個人観光ビザが7月に解禁された。ただ、これにより日本に来る人が急激に増えるわけではなく、徐々に増えていくだろう。

富裕層向けのショッピングツアーや、ゴルフ、温泉など、ひとつのテーマに特化した商品が求められる。旅行会社と組んで作っていきたい。

中国人向けサービスでは、機内食に工夫が必要だ。中国の人は温かいものを好む。

機内販売では、銀聯(ぎんれん)カードも使えるようにしなければいけない。

このほか機内アナウンスでは、日本語の次に中国語で放送するなど、順番に配慮する必要がある。

(日本航空インターナショナル中国事業推進部課長・小田和彦氏、同旅客営業本部課長観光政策推進担当・鈴木良子氏、日本航空上海支店・篠田大我氏、同・倉田勝功氏)

世界各国も中国市場に熱視線

ハワイへ年間6万人インセンティブ多い

ハワイでの中国市場に対する期待は大きい。

中国からハワイへは年間6万人弱が訪れている。保険会社や自動車メーカーなどのインセンティブツアーが多い。韓国からは約4万人だが、現在は流れが止まっている。

中国からハワイだけを訪れるツアーはまだ少ない。米国本土を訪れ、帰りにハワイに寄るなどのパターンだ。中国とハワイの間に直行便がないことが影響している。ただ、最近は日本や韓国を経由してハワイを訪れるツアーも出てきている。

(ジェイティービーハワイ副社長・辻野啓一氏)

JATAが日中国交正常化35周年で記念植樹

植樹するJATA金井会長(中央)ら

日本旅行業協会(JATA)と中国国家観光局共催の植樹事業が11月20日、昆明市内の観光地、大観公園で行われ、日本側からJATAの金井耿会長らが出席した。

交流をますます拡大
金井会長

JATAでは07年の日中国交正常化35周年を記念して、中国主要各都市で植樹事業「緑と花の植樹事業」を行っている。

金井会長は、来年開催の上海万博にふれ、「日本から多くのお客さまをお送りするという気持ちで今日の植樹に臨んだ。我々の努力が実を結び、日中間の交流がますます拡大するよう念願する」とあいさつ。

観光庁の甲斐正彰審議官は「07年の日中国交正常化35周年を記念して、中国主要各都市で植樹事業「緑と花の植樹事業」を行った。市民レベルの交流の積み重ねは両国の友好を発展させるのに重要だ。来年の上海万博で日本から大勢の観光客が中国全土を訪れるだろうが、中国の皆さまもますます日本を訪れていただきたい」と述べた。

植樹後の昼餐会では近畿日本ツーリストの吉川勝久社長があいさつ。「環境保護がますます重要になる中、環境に優しい植樹活動を行ったことは非常に意義深い。日本の旅行業界も環境に配慮した取り組みを一層進めたい」と述べた。